

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/05 ～2018/09/31 )

### 1. 勉学の状況

到着後、スマホ契約や入居手続きを終えたところでエラスムス学生および交換留学生のための Welcome Week が始まりました。

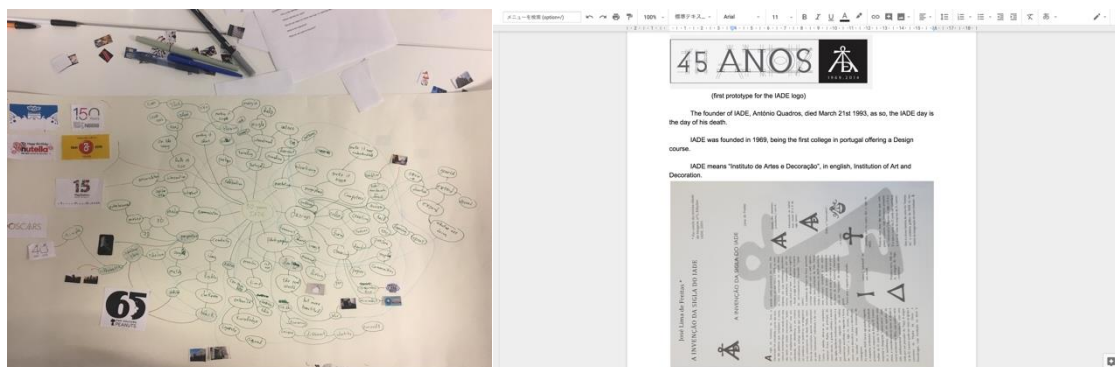
大まかな大学説明・Learning Agreement に関する手続き・リスボンツアーなどを経て多くの友人を作ることができたのですが、一番驚いたことは、日本人学生はおろかアジア人学生が一人もいないということでした。これはかなりラッキーで、英語での会話に順応しやすい上に自分が目立つので、大学に行くとみんなが声をかけてくれます。

夕方や夜になると友人の家に集まり、たわいもない話から価値観や将来に関する深い話まで、酒を飲みながら熱く語り合うことも多く、幅広い意味での学びというものを強く感じています。

授業に関しては、かれこれ3週間留学担当のコーディネーターの元に通いつめ、クラス確認とスケジュール申請を行っているのですが、手続きと情報の曖昧さで授業が確定しそうにありません。一部授業にはすでに参加しているのですが、取りたい授業が取れていないので明日も明後日も通うことになるといった状況です。

現在は個人的に外へ出かけて街のモノのスケッチ、友人のポートレート撮影を兼ねたカメラの勉強、授業のためのリサーチを行っています。

グループワークでは、デンマーク・ポルトガル・日本の異なる国からの学生同士のグループとなった為非常に刺激的です。



### 2. 生活の状況

入居初日から、宿探しに迷ってしまい近くのホテル前に立っていたフロントマンに助けられました。こちらの人々はみな親切でフレンドリーです。その一方で、決まった時間には物事がスタートしないと、ゆったりとしているところも国民性としてあるようです。

自分が住んでいるサントスというエリアは、観光地まで歩いて5分ほどの海岸沿いの地域で、

多くのスーパーや朝市などもある為、食材を確保するのに困ることはありません。ただし、観光地なので外食と自炊では食費に5倍以上の差はあると思います。

気温は温暖で、電車で30分ほどのカシュカイシュというリゾート地までいき、水温は冷たいものの泳ぐ事ができました。美術館や博物館も多く授業の合間を縫って巡りたいと思っています。また、こちらで一番仲良くなった友人とTake Action! と目標を立てて、現地学生のための伝統部活で、リスボン名物の一つでもある Praxe というものに参加してみました。ポルトガル語はわからないのですが、God Motherなる大学のことをなんでも助けてくれる親を決めました。100人ほどの学生がいるようで、英語を話せる学生もそう出ない学生も自分を覚えていて積極的に話しかけてくれます。今後も大学内外で行動を起こして、ポルトガルという土地をよく知りながら学びに生かしてきたいと思っています。

